

2023年

アンドレア師のキリスト教美術史講座 受講ノート Ⅸ

in 船橋学習センター「ガリラヤ」

from 蕨由美の Facebook



受講ノート 2023 From 藤由美の Facebook

アンドレア師のキリスト教美術史講座

In 船橋学習センター「ガリラヤ」

2023年2月1日

船橋学習センター「ガリラヤ」のアンドレア・レンボ師の「聖書と美術」講座をオンラインで受講しました。テーマは「イエスの受難と Sieger Köder」です。



今回、マルコの福音の14章「最後の晚餐とゲツセマネで祈る」を学ぶにあたって、三つの共観福音書のそれぞれの特徴と成り立ちについての説明がありました。

マルコ福音書は、イエスの弟子になろうとする初心者向け、マタイ書は信徒の共同体（教会）を作るのが目的、ルカ書はイエスを証しする宣教のために書かれているが、その土台となるのはマルコ書です。ちなみにヨハネ書は別で、成長している信徒一人一人が、ニコデモやラザロ、マグダラのマリアのようにイエスと出会うため、その内容は深い。

マルコ書は、創世記1章をなぞって「神の子イエスキリストの福音の初め」で始まり、ペトロの「あなた（イエス）はメシアです」（8章）、そして

百人隊長の「まことに神の子であった」（15章）と、「イエス＝メシア＝神の子」という「良い知らせ」（福音）を告げる。そして、「自分の十字架を背負って従い」（8章34）、自分の人生を歩むことを勧める。

後半の美術講座は、現代の画家 Sieger Köder の作品を、マルコ14章の受難の記述を参考に解説いただきました。

マルコによるイエスの受難と復活

Sieger Köder (1925年～2015年)

マルコ14・12～14 最後の晚餐とゲツセマネで祈る

Sieger Köder (1925年～2015年)

生年月日：1925年1月3日

出生地：ドイツ アーレン ヴァッサーアルフィンゲン

死亡日：2015年2月9日、ドイツ エルヴァンゲン

書籍：Glimpses of the Divine 「神の面影」

学歴：アカデミー・デア・シュトゥットガルト芸術大学 (1951年)



「過越の晩食」は、「出エジプト記」の伝統に従ってユダヤ人の親族が集まり、過越の食卓を囲む場面。暗い背景に月の光がさしている中、子供がこの食事の意義を質問し、長老がエジプト脱出の故事を語る。第二次大戦時のユダヤ人家族の受難を象徴的に物語っている。



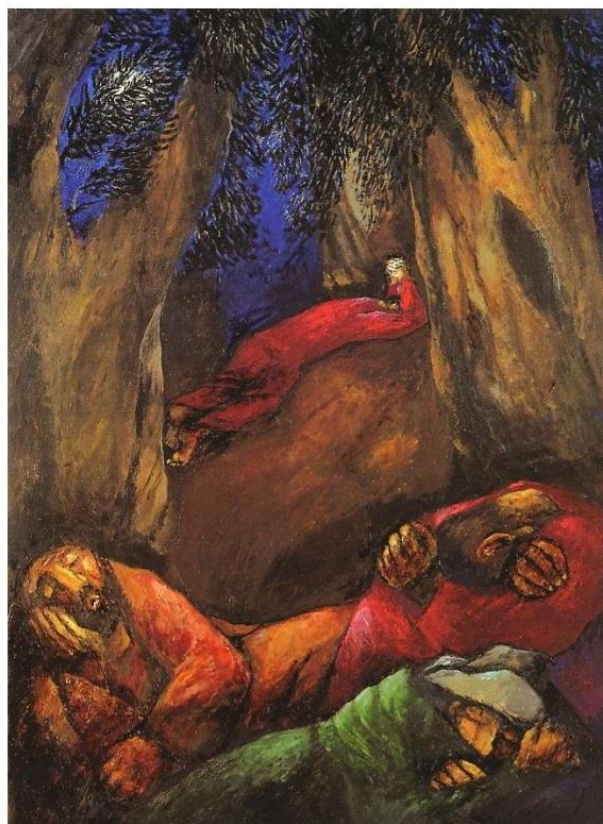
Sieger Köder (1925年～2015年)「過越の晩食」

「最後の晩餐」は、イエスがパンを取り裂いて弟子に「わたしの体」というマルコ 14 章 22 の場面。イエスは手前にいてその姿は描かれず、両手とカリスに映る顔でその存在が表現される。イエス自身をいけにえとして捧げることで、過越祭で屠られる子羊は必要なくなり、生きる力の源であるパンと無償の愛と喜びのワインが、私たちに与えられた。



Sieger Köder (1925年～2015年)、「最後の晩餐」

「ゲツセマネで祈る」は、「アッパ、父よ」と悶え祈るイエスと熟睡する 3 人の弟子を描く。夜空から月光が樹枝にその影を通してイエスの祈る手を照らしています。



Sieger Köder (1925年～2015年)、「ゲツセマネで祈る」

2023年2月15日

この日は、寒の戻りでとても寒かったですが、久しぶりに船橋学習センター「ガリラヤ」まで出かけ、アンドレア・レンボ師の「聖書と美術」講座を対面で受講。2021～2022年はずっと自宅でオンラインでの受講でしたので、2年ぶりに船橋の街を歩いてきました。



テーマは前回(2/1)に引き続き、「マルコによるイエスの受難復活」で、美術講座はSieger Köderの作品です。

マルコの福音は、ローマ時代迫害期に初心者向けに書かれ、特に8章31では受難と復活の予告に続いて「自分の十字架を背負って私に従いなさい」と、迫害やまたそれぞれの人生のあゆみのなかの苦悩を負って生きることを促した。

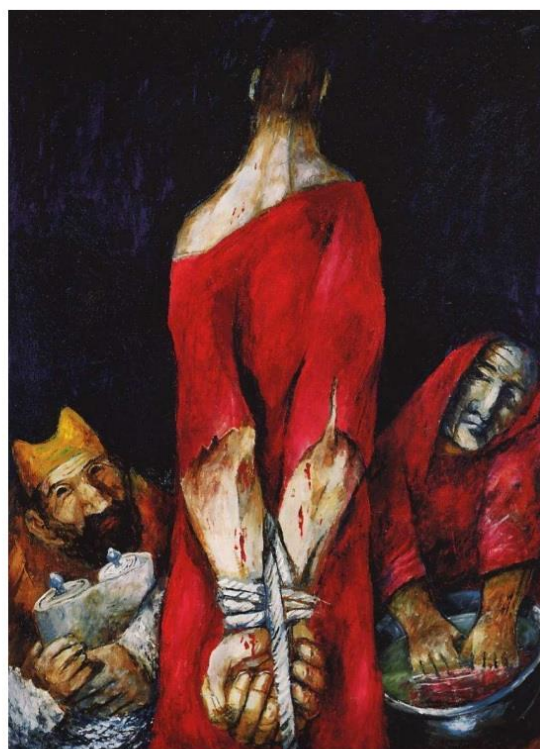
12章のたとえ話に出てくる詩編の「家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった」の親石とは、アーチ型の天井を支える要石のことで、イエスの受難、そしてメシアであることを示唆している。

14章から受難劇は、まず、最高法院での宗教裁判の場から始まる。「神殿を三日で建てなおす」の言質については証言が食い違い、「お前はメシアか」の問いに「そうです」と答えたことで、死刑が決議された。

続いて、ピラトによる国の裁判の場に引き出さ

れ、ここでは「ユダヤ人の王」なのかと尋問されるが、イエスは何も答えない。ピラトは祭司長たちのねたみと分かっているが、扇動された群衆にひるんで、イエスを彼らに引き渡す。

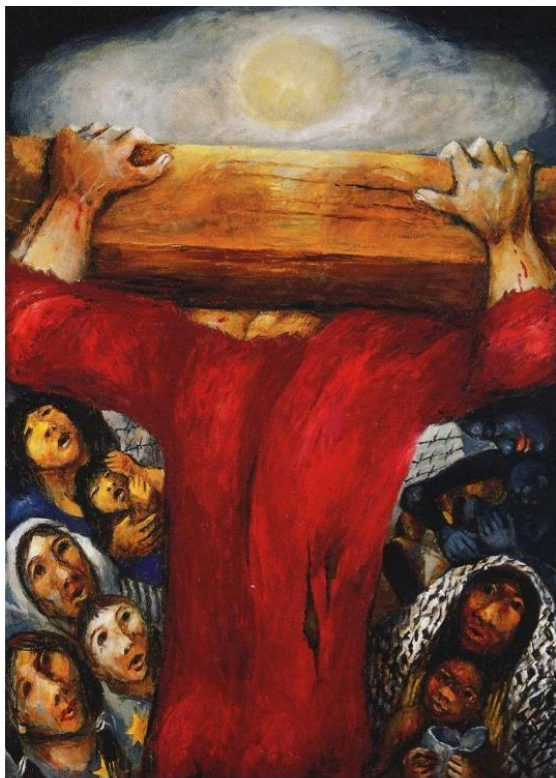
Sieger Köderの作品「裁判」は、イエスの後ろ姿の左にトラー（モーゼ5書）を抱え、頑なにしきたりを固守する祭司、右に「私は関係ない」と手を洗うピラトが描かれる。



Sieger Köder (1925年～2015年)、「裁判」



「十字架の道」は死刑の刑具である十字架の横棒を担ぐイエスと、その左右には、苦しみの中で見上げる人々、上には希望の太陽が描かれている。六芒星の印をつけたユダヤ人、クーフィーヤを被ったパレスチナ人の姿は、現代の、抑圧され迫害を受けて苦悩する民衆を表している。

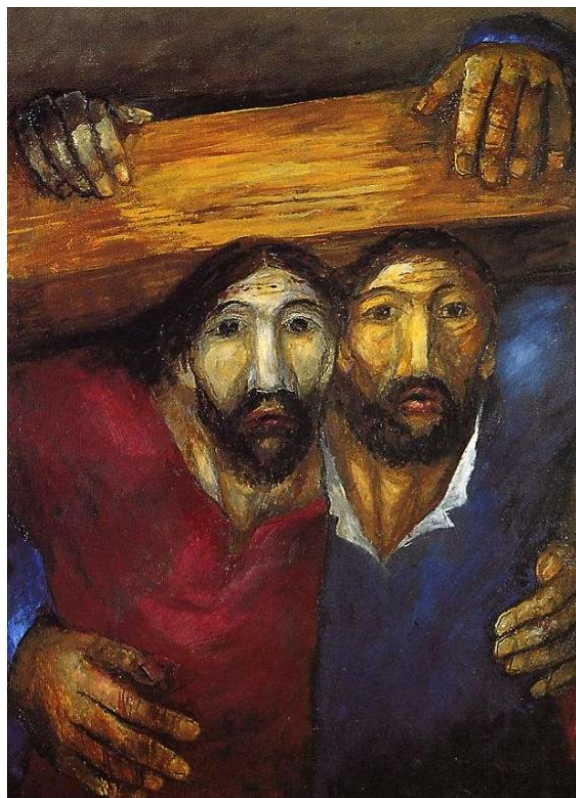


Sieger Köder (1925年~2015年)、「十字架の道」

「キレネ人」は、十字架を無理に担がせられた通りがかりのキレネ人を左に、イエスを右に描く。二人の顔は同じで、両手は互いに交差し、二人は一体となっている。

マルコの福音 15 章 21 は、田舎からきて偶然通りがかったキレネ人シモンについては「アレクサンドロとルフォスの父」となぜかあえて、その子達のラテン系の名を記している。その理由は、マルコがこの福音を書いた時代に、この二人の兄弟はローマの初代教会で名の知れた信徒であったからと推測される。

キレネ人シモンは、祭りのため上京し、騒ぎの理由も知らずに「犯罪人」の刑具を担わされたが、そのことが彼の救いになったことで、イエスとローマの共同体を二世代でつなぐという役割を果たすこととなった。



Sieger Köder (1925年~2015年)、「キレネ人」

2023年9月20日

船橋学習センターガリラヤのアンドレア レンボ師の講座「サルバドール・ダリとイエス」をオンラインで聴講しました。

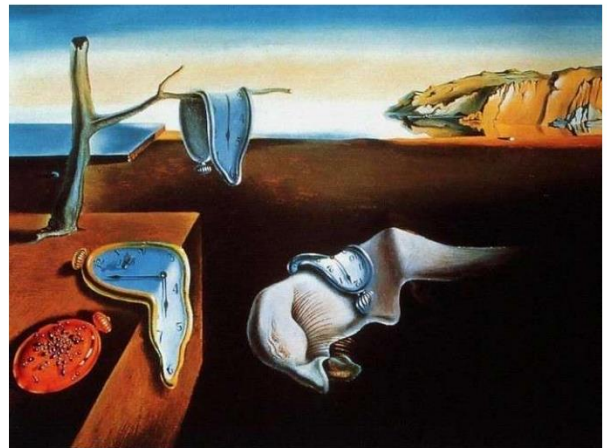


船橋学習センター理事長のアンドレア レンボ神父様は、9月16日東京大司教区補佐司教に任命されました。一か月前から「予感」があったとのことですが、突然の決定に、師曰く「大きなお恵みと畏れ」の真ただ中での今日の講座。12月16日予定の司教叙階式を前に、多忙極める中、今日は対面ではなく講師オンラインでの開講となりました。

テーマは、サルバドール・ダリの作品。ダリ(1904~1989)はスペインのシュルレアリスムの画家で、ダリは自分の制作方法を「偏執狂的批判的方法 (Paranoiac Critic)」と称し、写実的描法を用いながら、多重イメージなどを駆使して夢のような風景画を描いたとのこと。

代表作の『記憶の固執』の描かれた1931年は第二次世界大戦の予兆にヨーロッパ社会が動揺する時代で、時間の流れを測る「時計」は、「カマンベールチーズのように溶けて」柔らかく、「自分の人生が解けていく状態」を意味する。真ん中の時計の下の「謎」の物体はダリの自画像か？上部にはカタルーニャの海岸が描かれている。

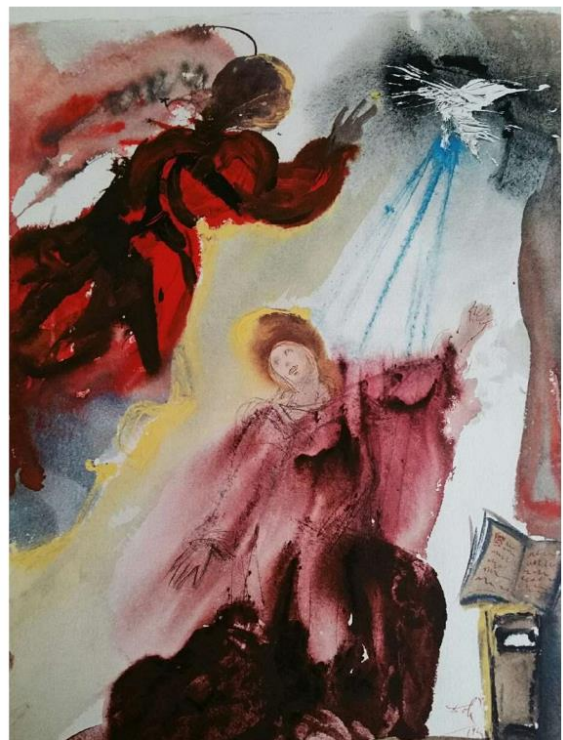
硬いものと柔らかいものへの執着



記憶の固執 (1931年)

大戦後に宗教画を描いたダリは、幼児洗礼の後、一時教会とぶつかることもあったが、のちに回心して信仰の深い人だった。

「イエスの誕生の予告」はルカ福音書1章の26~38を描く。舞い降りたばかりの天使の三本の指は三位一体を示し、右上の鳩は聖霊のしるし。天使を見上げ両手を広げ歓迎するマリアの姿は、イエス誕生に至る「瞬間」をとらえ、速さがある。



1967年~1969年 "La Biblia Sacra"、イエスの誕生が予告される

レオナルドダヴィンチの「受胎告知」、そしてマリアの姿はベルニーニの作品「聖テレジアの法悦」にインスピレーションを受けている。ダリも過去の作品に学ぶ芸術家であった。



レオナルドダヴィンチの「受胎告知」



ベルニーニの「聖テレジアの法悦」

「キリスト昇天」は、「ルカ福音書」24章50～53と「使徒言行録」1章6～11の天に上げられるイエスを見あげる使徒たちの視点で描かれている。大きな足裏と三位一体を表す右の手が印象的である。



1967年～1969年 “La Biblia Sacra”, キリスト昇天
ルカ 28,50-53 使 1,6,11

ダリのもう一つの有名な「キリストの昇天」は復活したイエスが十字架から離れて天に上る姿。地上を歩いた足、女性の姿の神、鳩（聖霊）。イエスの顔は神と向き合い、引っ張られ、復活の光が円を描く。



今日の講座で紹介された「イエスの誕生の予告」と「キリスト昇天」は、ダリの作品の中で有名ではないが、素晴らしい絵でした。

司教になられる準備での最初の仕事は「司教の紋章」を作成して、教皇庁の認可をいただくことのこと。お忙しい中でのアンドレア師の講座の次回は10月18日、そして紋章も楽しみですね。

追伸

10月18日の講座は、残念ながらお多忙のため中止になってしまいましたが、楽しみにしていた紋章は、12月16日の司教叙階式でご披露されました。



司教叙階式

2023年12月16日

アンドレア・レンボ

東京大司教区補佐司教

Andrea Lembo

Auxiliary Bishop of Tokyo

モットー

「わたしがあなたを愛したように」(ヨハネ 13:34)

紋章の説明

「愛」この世では、神の愛がイエスを通して金のように輝きます。「赤」この愛は、聖霊の働きによって炎のように燃え続け、世界を聖化し、すべての民を御父のもとに引き寄せます。「青：海と空」マリアを中心とした使徒たちを基礎とする教会は、福音を告げ知らせるために海を渡る船のようなものです。同時にそれは天上のエルサレムの反映でもあります。

Motto

“As I Have Loved You” (John 13:34)

Explanation of Coat of Arms

In the world, Love of God shines like gold, though Jesus (the Ideogram of Love). This Love, through the work of the Holy Spirit, continues to burn like a flame, to sanctify the world and attract all peoples to the Father (red). The Church, founded on the apostle and Mary, is like a boat that across the seas to announce the Gospel (blue representing the sea and the sky). At the same time, it is the reflection of the Celestial Jerusalem.

